

令和4年度

事業報告書

自 令和4年 1月 1日

至 令和4年12月31日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

I 概要

令和4年度のがが国の競馬は、引き続き新型コロナウイルス感染症がまん延する中、社会的制限下での着実な開催の継続とインターネット投票の拡大に支えられ、その売り上げは中央競馬及び地方競馬ともに堅調に推移した。

こうした状況下、競走馬理化学研究所は、適切な感染予防の措置と対策を講じた上で、競馬の公正確保等に不可欠な各種検査を着実に実施した。また、検査の国際標準化、効率化及び高度化を目指した研究開発を行うとともに、令和5年度からの新検査の実施に向けた体制整備を進めた。

薬物検査事業においては、競馬主催者、飼料業者、国際馬術連盟（FEI）等からの依頼に応じて、競走馬、騎手、飼料、馬術競技馬等を対象に検査を実施した。また、ISO/IEC 17025の認定維持に必要な定期サーベイランスを受審し、認定の維持が認められた。

さらに、海外競馬主催者等からの依頼に応じて、陽性検体（B検体）の再検査を実施した。

DNA型検査事業においては、血統登録機関等からの依頼に応じて、軽種馬の親子判定及び個体識別検査等を実施した。

研究事業においては、日本中央競馬会から委託された「治療薬物の薬物動態に関する研究」、「検査対象薬物の拡大に関する研究」及び「糖質コルチコイド投与後のマイクロRNA発現に関する調査・研究」の各テーマについて研究を実施した。

一般化学分析事業においては、馬伝染性子宮炎の検査、競走馬の遺伝子検査等を実施した。

「新薬物検査体制確立事業」においては、新薬物検査の開始に向けて、分析機器、設備及びシステムの整備と、新たな検査法を用いた薬物の使用実態調査を実施した。

また、国際競馬統括機関連盟（IFHA）による薬物検査機関の指定については、リモート審査のため暫定的なものから現地審査を経て7月に正式指定された。

「競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業」においては、遺伝子ドーピング検査の開始に向けて、検査機器の導入、遺伝子ドーピング物質及び遺伝子改変部位の検出法の評価・検証、実態調査及び全ゲノム解読による遺伝情報のモニタリングを行った。

II 事業内容

1 薬物検査事業

1) 競走馬の薬物検査

(1) 禁止薬物の検査（レース分）

検査件数 45,901 件

陽性件数 0 件

中央競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
札幌	504	中山	1,513	阪神	1,944
函館	432	東京	1,620	小倉	1,081
福島	720	中京	1,620	小計	10,370
新潟	936	京都	0	再検査	0
				計	10,370

地方競馬

競馬場	検査件数	競馬場	検査件数	競馬場	検査件数
帯広	3,478	大井	3,159	姫路	611
門別	2,242	川崎	2,093	高知	2,817
盛岡	1,768	金沢	2,037	佐賀	2,927
水沢	1,578	笠松	2,079	小計	35,531
浦和	1,824	名古屋	3,308	再検査	0
船橋	1,852	園田	3,758	計	35,531

(2) 規制薬物の検査（レース分）

検査件数 2,463 件（日本中央競馬会 1,662 件、地方競馬主催者 801 件）

陽性件数 2 件

(3) 競技外検査

検査件数 5,956 件（日本中央競馬会 5,640 件、地方競馬主催者 316 件）

陽性件数 0 件

2) 飼料等の薬物検査

検査件数 701 件
陽性件数 0 件

依頼者	区 分				計
	カテゴリーA	カテゴリーB	カテゴリーC	イプラトロピウム	
日本中央競馬会	0	0	12	0	12
地方競馬主催者	0	0	0	0	0
飼料業者等	6	0	678	5	689
計	6	0	690	5	701

注 カテゴリーA : イプラトロピウムを除く全ての禁止薬物
カテゴリーB : 禁止薬物のうち自然界に存在する 15 薬物
カテゴリーC : IFHA において国際残留限界値が定められている 6 薬物

3) セール上場馬の薬物検査

検査件数 205 件 (日高軽種馬農業協同組合 140 件、
千葉県両総馬匹農業協同組合 65 件)
陽性件数 0 件

4) 騎手の薬物検査

検査件数 89 件 (日本中央競馬会 8 件、地方競馬主催者 81 件)
陽性件数 2 件

5) 馬術競技馬の薬物検査

(1) 日本馬術連盟からの薬物検査

検査件数 51 件
陽性件数 1 件

(2) FEI からの薬物検査

検査件数 275 件
陽性件数 11 件

(3) 海外馬術連盟からの B 検体薬物検査

検査件数 1 件 (オマーン)
陽性件数 1 件

6) その他の薬物検査

(1) 育成馬のアナボリックステロイド検査

検査件数 89件 (日本中央競馬会)

陽性件数 0件

(2) 海外交流競走出走予定馬の薬物検査

検査件数 1件 (ブリーダーズカップ協会)

陽性件数 0件

(3) 海外競馬主催者からのB検体薬物検査

検査件数 8件 (オマーン2件、オーストラリア6件)

陽性件数 8件

(4) その他の薬物検査

検査件数 76件 (日本中央競馬会 他)

陽性件数 0件

7) 薬物検査法審議委員会の開催

(1) 委員

氏名	職名等	備考
尾崎 博	(学)加計学園 岡山理科大学獣医学部教授	再任
川原 貴	(公財)日本スポーツ協会 アンチ・ドーピング部会部会長	〃
興石 一郎	(大)群馬大学大学院保健学研究科教授	〃
下田 実	(大)東京農工大学名誉教授	〃
豊島 聡	(公財)日本薬剤師研修センター理事長	〃
本間 浩	(一社)薬学教育協議会代表理事	〃
吉田 武美	(公社)薬剤師認定制度認証機構代表理事	〃

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日

(2) 委員会の開催

第58回薬物検査法審議委員会を9月28日に開催し、「馬の薬物検査法」の新設について審議し、原案のとおり承認された。

8) 薬物検査能力の検証

公認競馬化学者協会 (AORC) が各国の競走馬の薬物検査機関に対して毎年提供する技能試験に合格した。

9) 調査研究成果の報告及び情報収集

新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年から2年続けて延期され、令和4年10月に香港で開催が予定されていた第23回競馬分析化学者及び競馬獣医師の国際会議 (ICRAV) は、さらに1年延期となった。11月にニュージーランドで開催された第23回 AORC アジアセクションミーティングに5名が参加し、4題の研究成果を発表した。

12月16日に日本中央競馬会本部で開催された第24回禁止薬物問題に関する連絡協議会に、委員1名、諮問委員1名が参加した。

その他、第70回質量分析総合討論会 (6月22日～24日、福岡、2名)、サーモフィッシュャー質量分析フォーラム2022 (7月15日、東京、4名) 及び日本ウマ科学会第35回学術集会 (11月28日～29日、東京、4名) に参加した。

10) ISO/IEC 17025 認定の維持

(1) ISO 試験所認定審査の受審

9月22日に日本適合性認定協会 (JAB) による ISO/IEC 17025:2017 (JISQ 17025:2018) 第11回定期サーベイランスを受審し、12月6日付で試験所認定の維持が認められた。

(2) 内部監査及びマネジメントレビューの実施

ISO/IEC 17025 の規格要求事項に則って、内部監査を延べ23回実施した。また、定期及び臨時のマネジメントレビューをそれぞれ1月27日及び12月23日に開催した。

2 DNA 型検査事業

1) 軽種馬の親子判定及び個体識別検査

(1) 親子判定検査

検査件数	7,607 件	(ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)
親子関係否定件数	1 件	

(2) 個体識別検査

検査件数 328 件 (ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)

2) 軽種馬の毛色の遺伝子検査

検査件数 774 件 (ジャパン・スタッドブック・インターナショナル)

3) 馬の新生子黄疸予防のための検査

検査件数 45 件 (日本軽種馬協会)

4) その他の検査

(1) ユニバーサルドナー選定のための検査

検査件数 70 件 (生産者 他)

(2) 軽種馬以外の DNA 型検査

検査件数 176 件 (日本馬事協会 他)

親子関係否定件数 1 件

(3) 軽種馬以外の毛色の遺伝子検査

検査件数 11 件 (日本馬事協会)

(4) 性染色体の検査

検査件数 4 件 (生産者)

5) 親子判定・個体識別検査能力の検証

国際動物遺伝学会 (ISAG) が隔年で実施するホースコンパリソンテスト 2022-2023 に参加、テスト用サンプルを 12 月末に受領し、解析を開始した。

6) 調査研究成果の報告及び情報収集

NGS EXPO 2022 (10 月 18 日～19 日、オンライン、1 名)、第 64 回競走馬に関する調査研究発表会 (11 月 28 日、東京、1 名)、日本ウマ科学会第 35 回学術集会 (11 月 28 日～29 日、東京、3 名) に及び第 45 回日本分子生物学会年会 (11 月 30 日～12 月 2 日、千葉、1 名) に参加した。

3 研究事業

1) 日本中央競馬会からの委託研究

(1) 治療薬物の薬物動態に関する研究

薬物規制のうえで必要な薬物の検出期間を求めることを目的に、2種類の治療薬の馬体投与試験を行った。メピバカイン及びヒドロキシprogesteroneカプロン酸エステルを主成分とする治療薬をそれぞれサラブレッド6頭の筋肉内に投与し、血液及び尿を最大10日後まで経時的に採取した。薬物及びその代謝物の検出には液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法を用い、定量分析を行った。その結果、両薬物の代謝動態及びその濃度推移が明らかとなり、各々の検出期間を決定するために必要なデータを得た。

(2) 検査対象薬物の拡大に関する研究

IFHAが生涯を通じての使用を禁じている低酸素誘導因子安定化薬の検査法を開発するため、サラブレッド3頭にバダデュスタットを投与し、代謝動態を解析した。血液及び尿を投与14日後まで、たてがみを6か月後まで、それぞれ経時的に採取し、液体クロマトグラフィー/高分解能質量分析法を用いて薬物及びその代謝物の検出及び定量分析を行った。その結果、血液及び尿からは未変化体に加え23種類の代謝物が検出され、その中で薬物検査の検出物質にはバダデュスタットの未変化体が最適であることがわかった。また、たてがみからは6か月後にも検出されたことから、投与歴の確認に利用できることが示唆された。

(3) 糖質コルチコイド投与後のマイクロRNA発現に関する調査・研究

本研究は3年計画で、薬物の作用を評価するために有用なマイクロRNAの解析と、薬物検査で検出された糖質コルチコイドの由来を判断する方法の確立を目的とする。

最終年度の令和4年度は、糖質コルチコイド投与により発現量が変化するマイクロRNAの中から、副腎皮質由来の内因性ヒドロコルチゾンの増減に関連して、発現動態が異なるマイクロRNAの探索を行った。

内因性ヒドロコルチゾン分泌を促進するために、サラブレッド6頭を用いてトレッドミルによる運動負荷及び副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)の投与を実施した。運動後6時間及びACTH投与後72時間まで経時的に採血を行い、血漿中に含まれるヒドロコルチゾン濃度を液体クロマトグラフィー/タンデム質量分析法で測定した。また、血漿サンプル中に含まれるマイクロRNAの発現動態を確認するため、リアルタイムPCRによる定量分析を実施した。

その結果、2種のマイクロRNA(1et-7a及びmiR-628a)において、ヒドロコルチゾン製剤投与時と内因性ヒドロコルチゾン増加時で異なる発現動態が確認された。これ

らのマイクロ RNA は、薬物検査で検出されたヒドロコルチゾンが内因性由来か否かの判定に利用できる可能性がある。

糖質コルチコイドの作用及びヒドロコルチゾンの由来を判断するバイオマーカーとして、マイクロ RNA の有用性を検討した3年間の研究成果をまとめた結果、ヒドロコルチゾン製剤投与時と内因性ヒドロコルチゾン増加時では異なる発現動態を示した2種のマイクロ RNA (let-7a 及び miR-628a) は、ヒドロコルチゾン製剤の投与を示すバイオマーカーとしての有用性が示唆された。

(4) 委託研究成績の報告

令和3年度日本中央競馬会委託研究の成績を報告書に取りまとめ、6月30日に日本中央競馬会競走馬総合研究所大会議室において報告会を開催し、研究成果を報告した。

- 2) 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等を対象とする理化学的研究及び衛生学的研究
該当する研究はなかった。

4 一般化学分析事業

1) 馬伝染性子宮炎の検査

検査件数 2,199 件 (日高家畜衛生防疫推進協議会 他)
陽性件数 0 件

区 分	検査件数
馬伝染性子宮炎侵入防止事業	1,373 件
馬伝染性子宮炎蔓延防止事業	329 件
その他 (上記事業以外)	497 件

2) 競走馬の遺伝子検査

(1) スピード遺伝子検査

検査件数 343 件 (馬主 他)

(2) 体高遺伝子検査

検査件数 342 件 (馬主 他)

3) その他

(1) 木曾馬種の保存事業における受託研究

受託件数 1 件 (木曾町)

(2) 血漿中の薬物の濃度測定

受託件数 1 件 (日本中央競馬会)

(3) 海外輸出馬の薬物検査

検査件数 2 件 (日本軽種馬協会)

(4) 馬遺伝情報の解析

受託件数 1 件 (鹿児島大学)

(5) 重種馬におけるユニバーサルドナー適性に関する調査

調査件数 1 件 (家畜改良センター十勝牧場)

5 新薬物検査体制確立事業

本事業は、国際標準を満たす新検査法を用いた薬物検査体制を構築することを目的とし、日本中央競馬会からの助成により 4 年計画で実施した。最終年度となる令和 4 年度は、IFHA 現地審査を受審し、7 月に正式に IFHA 薬物検査機関の指定を受けた。また、令和 5 年度からの新たな薬物検査を実施するための体制を構築した。

1) 分析機器・システムの整備

液体クロマトグラフ高分解能質量分析計等の分析機器等を購入し、薬物の使用実態調査及び新薬物検査体制に必要な検査機器、設備を整備した。

① 購入検査機器

検査機器名	数量
液体クロマトグラフ高分解能質量分析計	4
液体クロマトグラフタンデム質量分析計	4
ガスクロマトグラフタンデム質量分析計	1
自動固相抽出装置	4

窒素発生装置	4
尿自動分取装置	2
その他汎用機器(遠心機、振とう機等)	

② 購入設備及びシステム

設備及びシステム名	数 量
入退室管理システム改造	1
薬物検査システム 2次開発	1
LIMS 2次開発(後期分)	1
活性炭排気処理装置	1

2) 国際的な薬物検査機関としての指定の取得・維持

IFHA 薬物検査機関指定は、6月に現地審査を受審した。現地審査においては検査員の技術、分析機器の管理状況、分析データ及び検査・研究実績の確認などが行われた。これまでに令和2年に技能試験、令和3年にリモート審査を受審し、同年7月に IFHA Reference Laboratory の暫定的な指定を受けており、この現地審査の結果報告により、令和4年7月22日に執行協議会から正式に承認を受けた。

IFHA が Reference Laboratory に対して実施する技能試験に合格した。また、IFHA 及びアジア品質保証プログラムによる陰性検体交換プログラムに参加した。

3) 競馬検体を用いた実態調査

新検査法を用いて、約800件(尿約500件、血液約300件)の国内レース検体を対象とした薬物の使用実態を調査するとともに、分析データを集積しながら、必要に応じたデータ解析法の改良を行った。

6 競走馬の遺伝子ドーピング検査法確立事業

本事業は、日本中央競馬会の助成により令和2年度より3年計画で実施した。最終年度となる令和4年度は、検査機器を導入して検査体制の整備を行うとともに、馬の遺伝子ドーピング検査法及び馬の遺伝子改変検査法を確立した。また、遺伝子ドーピング及び遺伝子改変の規制に関連する国際会議に参加した。

1) 検査用機器の整備

遺伝子ドーピング検査に必要な機器としてリアルタイム PCR・SNP 解析装置や薬用冷蔵ショーケース等を購入し、多検体処理が可能な検査体制の整備を行った。

検査機器名	数量
リアルタイムPCR・SNP解析装置	1
薬用冷蔵ショーケース	3
検査管理用PC	2
データ解析サーバー	1
リアルタイムPCR・SNP解析装置用 Windowsアップグレード	1

2) 遺伝子ドーピング検査法の確立

(1) 「馬の遺伝子ドーピング検査法」の作成

これまでに開発した、多検体（血液）を対象としたDNA抽出、12遺伝子（24標的部位）の一斉分析が可能なスクリーニング検出、個別遺伝子の高感度な検出が可能な確認検出、詳細な分析が必要な際に適用する補完検出、以上から構成される「馬の遺伝子ドーピング検査法」を作成した。

(2) 「馬の遺伝子改変検査法」の作成

これまでに開発した、多検体（毛根）からのDNA抽出、約50遺伝子の一斉分析が可能なスクリーニング検出、個別遺伝子の改変部位を明らかにする確認検出、以上から構成される「馬の遺伝子改変検査法」を作成した。

(3) 遺伝子検査法審議委員会の設置及び開催

馬の親子判定・個体識別検査、遺伝子ドーピング検査及び遺伝子改変検査において、各検査法の妥当性を審議する遺伝子検査法審議委員会を設置した。本委員会は、常設の委員会とし、委員の人数は5人、任期は2年（再任可能）とし、「動物遺伝学」や「ゲノム科学」、「獣医学」の各専門分野から委嘱した。

第1回遺伝子検査法審議委員会を9月21日に開催し、「馬の遺伝子ドーピング検査法」及び「馬の遺伝子改変検査法」の新設について審議し、原案のとおり承認された。

遺伝子検査法審議委員会委員

氏名	職名等	備考
荻野 敦	(一社)家畜改良事業団遺伝検査部上席専門役	新任
木崎景一郎	(大)岩手大学農学部共同獣医学科教授	〃
永岡謙太郎	(大)東京農工大学大学院 グローバルイノベーション研究院教授	〃
平野 貴	(学)東京農業大学農学部動物科学科教授	〃
福井えみ子	(大)宇都宮大学農学部生物生産科学科教授	〃

任期：令和4年9月1日～令和6年3月31日

(4) その他

遺伝子ドーピングの実態調査のため、日本中央競馬会トレーニングセンター入厩検査時に採取した約2,100件の血液検体に対して、馬の遺伝子ドーピング検査法を適用した結果、全て陰性であることを確認した。また、遺伝子改変の実態調査のため、ジャパンスタッドブックインターナショナルから提供された約100件の毛根検体に対して、馬の遺伝子改変検査法を適用した結果、全て陰性であることを確認した。更に、遺伝的健全性対策の一環となる生体サンプルバンクを構築するために、血液検体約5,200件の保管・管理及び全ゲノムシーケンス解析による遺伝情報のモニタリングを実施した。

3) 国内外の会議及び学術集会への参加

IFHA 遺伝子ドーピング規制小委員会、2022 国際馬ゲノムワークショップ、第45回日本分子生物学会年会等、国内外における10の会議及び学術集会に出席した。

7 その他事業

該当する事業はなかった。

8 その他

- 1) 研究成果を普及・啓発し、関連する学術の振興に寄与することを目的として、学会発表、論文報告、書籍及び雑誌への投稿を行った。また、技術指導、講師派遣、広報活動、取材及び見学の受入れを実施した。

(1) 学会発表

学会名（開催地、開催日）	発表者
2022 国際馬ゲノムワークショップ（米国、7月24日～28日）	戸崎晃明
第165回日本獣医学会学術集会（オンライン、9月6日～8日）	菊地美緒
第23回AORCアジアセクション会議（ニュージーランド、11月2日～4日）	小平美里、石井英昭、 LEUNG NGAI WA、 古川貴之
第64回競走馬に関する調査研究発表会（東京、11月28日）	戸崎晃明
第35回日本ウマ科学会学術集会（東京・オンライン、11月28日～29日）	河津知樹、石井英昭
第45回日本分子生物学会年会（千葉、11月30日～12月2日）	戸崎晃明

(2) 論文報告

報告誌名、年、巻（号）、頁	筆頭著者
Drug Testing and Analysis 2022;14(5):915-928	Ohnuma K
Drug Testing and Analysis 2022;14(2):233-251	Ishii H
Drug Testing and Analysis 2022;14(7):1244-1254.	Ishii H
Drug Testing and Analysis 2022;14(5):902-914.	Ishii H
Journal of Chromatography B: Analytical Technologies in the Biomedical and Life Sciences 2022;1190:123100.	Ishii H
Current Drug Metabolism 2022;23(10):850-865.	Ishii H
Rapid Communications in Mass Spectrometry. 2022;36(23):e9396.	Ishii H
Analytical and Bioanalytical Chemistry 2022;414(28):8125-8142.	Ishii H
Animal Genetics 2022;53:183-192.	Tozaki T
Genes (Basel) 2022;13:1589.	Tozaki T
Equine Vet J. 2022;54(6):1039-1049.	Minamijima Y

(3) 書籍及び雑誌への投稿等

書籍「スポーツと遺伝子ドーピングを問う(晃洋書房)」及び雑誌「Hippophile No. 91, 2022(日本ウマ科学会)」に、馬の遺伝学的研究に関する記事を投稿した。

(4) 技術指導及び講師派遣

日本大学大学院獣医学研究科等を対象に、馬の遺伝学的研究及びゲノム解析に関する技術指導を3件実施した。また、日本馬事協会等を対象に、競走馬のドーピング検査、遺伝子検査等に関する講演を6件実施した。

(5) 広報活動

競走馬の遺伝子検査を普及するための広報活動において、ブリーズアップセール(4月26日)及びセレクトセール(7月11日及び12日)において、主催者に依頼し、来場者向けのパンフレットをセール会場の受付に設置した。

(6) 取材及び見学者の受入れ

雑誌「馬ライフ」等から、馬の遺伝学的研究等に関する取材を3件受け入れた。また、競馬主催者の役職員、調教師、厩務員、騎手の候補生等を対象に、22件、142名の見学者を受け入れた。

- 2) 令和2年9月に着工された日本中央競馬会による施設の改修工事は、東京オリンピック・パラリンピックにおける馬術競技馬の検査実施のための一時中断を経て、令和4年2月に竣工し、引き渡しを受けた。

Ⅲ 総務関係

1 評議員及び評議員会

(1) 評議員

氏名	職名等	備考
秋元 稔弥	地方競馬全国協会 理事	2月28日まで 3月1日から
岩元 正文	(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル 理事	
上野 儀治	日本中央競馬会 前理事	
菊田 淳	日本中央競馬会 理事	
木村 一人	日本中央競馬会 常務理事	
釘田 博文	国際獣疫事務局 アジア太平洋地域代表	
鈴木 邦則	全国公営競馬主催者協議会 常任理事	
田原 文夫	(株)すかいらーく HD 社外取締役	

任期：令和4事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 評議員会の開催

評議員会を次のとおり開催した。

第1回評議員会 2月25日（書面による決議の省略）

（みなし決議事項）

議案 評議員の選任について

第2回評議員会 3月11日

（決議事項）

議案 令和3年度事業報告及び決算について

第3回評議員会 12月9日

（決議事項）

議案 令和5年度事業計画及び収支予算について

2 役員及び理事会

(1) 役員

役職名	氏名	主な経歴	備考
理事長 (常勤)	安齊 了	日本中央競馬会 監事	
常務理事 (常勤)	側原 仁	(公財)競走馬理化学研究所 薬物分析部長	
	生野 等	地方競馬全国協会 理事	
理事 (非常勤)	兼丸 卓美	日本中央競馬会 競走馬総合研究所長	
監事 (非常勤)	佐藤 信博	日本中央競馬会 新潟競馬場長	
	岩崎 幸治	地方競馬全国協会 理事	

任期：令和4事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 理事会の開催

理事会を次のとおり開催した。

第1回理事会 2月22日

(決議事項)

- 第1号議案 令和3年度事業報告及び決算について
- 第2号議案 令和4年度第2回評議員会の招集について
- 第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所ハラスメントの防止等に関する規程の制定について
- 第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所嘱託に関する規程の一部改正について
- 第5号議案 薬物検査法審議委員会委員の改選について
- 第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程第7条に規定する退職手当の支給について
- 第7号議案 評議員候補者の選定について
- 第8号議案 評議員会の決議の目的である事項の提案について

(報告事項)

- 1. 令和4年度第1回財産運用検討会の審議結果
- 2. 令和3年度収支予算の流用結果

第2回理事会 6月24日

(決議事項)

- 第1号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所 DNA型検査法審議委員会運営規則の一部改正について
- 第2号議案 遺伝子検査法審議委員会委員の委嘱について
- 第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所会計規程の一部改正について
- 第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について
- 第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所嘱託に関する規程の一部改正について

(報告事項)

理事の職務の執行状況

第3回理事会 10月21日

(決議事項)

- 第1号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所検査法通則の制定について
- 第2号議案 競走馬薬物検査の方法及び判定基準の改正について
- 第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の遺伝子ドーピング検査法の制定について
- 第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の遺伝子改変検査法の制定について
- 第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所競走馬薬物検査受託規程の一部改正について
- 第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所規制薬物の理化学検査受託規程の廃止について
- 第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の遺伝子ドーピング検査受託規程の制定について
- 第8号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の遺伝子改変検査受託規程の制定について
- 第9号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所育児休業等に関する規程の一部改正について

(報告事項)

1. 第58回薬物検査法審議委員会の審議結果について
2. 第1回遺伝子検査法審議委員会の審議結果について

第4回理事会 11月18日

(決議事項)

- 第1号議案 令和5年度事業計画及び収支予算について
- 第2号議案 令和4年度第3回評議員会の招集について
- 第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所飼料等薬物検査受託規程の一部改正について
- 第4号議案 令和5年度競走馬理化学研究所における国際リファレンスラボラトリー体制強化事業実施要領の制定について
- 第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職務権限規程の一部改正について
- 第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所理事会が認める理事長があらかじめ実施できる事項を定める通達の一部改正について
- 第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所文書取扱規程の一部改正について
- 第8号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所薬物検査法審議委員会運営規則の一部改正について
- 第9号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の個体識別検査受託規程の一部改正について

(報告事項)

1. 理事の職務の執行状況
2. 令和4年度第2回財産運用検討会の審議結果

3 人事異動

1) 参 与	就 任	1 名	退 任	0 名
2) 職 員	採 用	2 名	退 職	2 名

役職員等の状況

区 分		1月1日現在	12月31日現在
役員	理 事	4 (1)	4 (1)
	監 事	2 (2)	2 (2)
参 与		2 (1)	3 (1)
職員	総 務 部	7	11 <1>
	薬物分析部	28	28
	遺伝子分析部	5	5
	品質保証室※	3	—
	小 計	43	44
嘱託	総 務 部	0	2
	薬物分析部	14	14
	遺伝子分析部	1	1
	品質保証室※	2	—
	小 計	17	17
合 計		68 (4)	70 (4) <1>

括弧内は、非常勤の人数で、内数である。

山括弧内は、日本中央競馬会からの出向者の人数で、内数である。

※ 品質保証室は、4月1日付組織改正により総務部に編入した。

4 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項がないため、省略した。